東京医科大学看護専門学校紀要　第16巻1号，2006年3月

看護学生の結婚・出産・育児・および就業に関する意識調査
——一般女子大学生の意識調査文献との比較——

小泉　裕子　　齋藤　貴子　　高橋茉奈美
鍋田めぐみ　　成田みゆき*

東京医科大学看護専門学校3学年
*東京医科大学看護専門学校（論文指導担当教員）

I. はじめに

高学歴化・社会進出・晩婚化などにより現代女性のライフスタイルは多様化し，女性の結婚・出産・育児に対する意識の変容が注目されている．女性の就業状況には，結婚・出産・育児が大きく関係しており，出産・育児と仕事の両立を阻害する要因として，育児環境や社会制度の不備，育児が女性の性役割として社会的に認知されてきていることなどが挙げられる．

高学歴であるといわれている一般大学生は，結婚や出産に対する願望を持ち，「仕事も家庭も」という希望がある[1]と，文献により明らかとなった．看護学生も入学時点ですでに就業継続を意識し，さらに将来看護職という資格を有するため，就業継続意識が高いのではないかと考えた．

そこで，一般大学生の結婚・出産・育児・就業に関する意識調査の文献を用いて，看護学生に比較調査を行った．

II. 研究方法

1. 調査対象：都内看護専門学校3年女子（未婚者）74名
2. 調査実施日：2005年7月27日
3. 調査方法：質問紙法調査　比較文献を基に質問紙を作成し，直接回答によるアンケート調査を行った．
4. 集計・分析方法：有効回答を得た70名を分析対象とし，単純集計した（回収率：94.6%）．
5. 比較文献：森本恵　他著：大学生女子の結婚・出産・育児および就業に関する意識調査，高知医科大学紀要，16, 65-76, 2000.
6. 倫理的配慮：対象者にアンケート調査の主旨を文書および口頭で説明し，匿名性を厳守することおよび強制をしないことを説明して実施し，回収をもって同意を得たこととした．

III. 結　　果

文献による大学生の結果と今回の看護学生へのアンケートの結果を比較してみると，以下のようになる．

1. 対象

大学生285名，看護学生70名であった．平均年齢は，大学生21.8歳，看護学生20.7歳であった（表1-A）．

2. 結婚願望

結婚願望があるものは，大学生233名（81.8%），看護学生69名（98.6%）であった．（表1-A）希望結婚平均年齢は，大学生26.8歳，看護学生26.3歳であった．

3. 出産願望

「どちらかといえば出産したい」を含めて出産願望があるものは，大学生251名（88.1%），看護学生69名（98.6%）であった（表1-A）．

「出産したい」理由は（表2）看護学生は「子どもが好き」「好きな人の子どもが欲しい」「自分の親に孫の顔を見せたい」の順に多く大学生は「自然なことである」「「子どもが好き」「好きな人の子どもが欲しい」であった．「出産したくない」理由は（表3）看護学生は

Key Words：結婚，出産，育児，就業，ライフスタイル

表 1-A 結婚と出産願望についての大学生と看護学生との比較

	平均年齢	結婚願望	希望結婚平均年齢	出産願望	出生率低下に対する意識
看護学生 (n=70)	20.7歳	あり 69 (98.6%) なし 0 (0.0%) 無効回答 1 (1.4%)	26.3歳	あり 69 (98.6%) なし 1 (1.4%)	深刻な問題である 68 (97.1%) 深刻な問題でない 2 (2.9%)
大学生 (n=285)	21.8歳	あり 233 (81.8%) なし 52 (18.2%)	26.8歳	あり 251 (88.1%) なし 34 (11.9%)	深刻な問題である 167 (58.6%) 深刻な問題でない 118 (41.4%)

表 1-B 就業意識についての大学生と看護学生との比較

	就業意識			
	◎卒業後の進路	◎結婚後の就業意識		◎出産後の就業意識
看護学生 (n=70)	就職・進学後就職予定者 69 (98.6%) その他・未定 0 (0.0%) 無効回答 1 (1.4%)	就業したい 50 (71.4%) 就業したくない 13 (18.6%) 無効回答 7 (10.0%)	看護学生 (n=69)	出産→退職 6 (8.7%) 出産→就業継続 19 (27.5%) 子どもの成長後→再就職 44 (63.8%)
大学生 (n=285)	就職・進学後就職予定者 262 (91.9%) その他・未定 23 (8.1%)	就業したい 200 (85.8%) 就業したくない 85 (14.2%)	大学生 (n=251)	出産→退職 15 (6.0%) 出産→就業継続 60 (23.9%) 子どもの成長後→再就職 166 (66.1%) 無効回答 10 (4.0%)

表 2　出産したい理由　(複数回答)　　人 (%)

	看護学生 (n=69)	大学生 (n=251)
自然なことである	19 (8.8)	147 (20.9)
子どもが好き	48 (22.3)	129 (18.3)
好きな人の子どもがほしい	46 (21.3)	111 (15.8)
子育てによって自己成長したい	15 (6.9)	76 (10.8)
自分の親に孫の顔を見せたい	40 (18.5)	76 (10.8)
生きがいを持ちたい	15 (6.9)	48 (6.9)
自分の老後が安心である	9 (4.2)	39 (5.5)
子どもに自分の夢を託したい	2 (0.9)	12 (1.7)
その他	1 (0.5)	12 (1.7)

表 3　出産したくない理由　(複数回答)　　人 (%)

	看護学生 (n=1)	大学生 (n=32)
自分の生き方を大切にしたい	1 (100.0)	18 (23.3)
妊娠，出産に対して不安がある	0 (0.0)	11 (14.3)
親になることに自信がない	0 (0.0)	10 (13.0)
基本的に子どもが好きではない	0 (0.0)	9 (11.7)
子どもに対して責任を負いたくない	0 (0.0)	7 (9.1)
夫婦二人だけの生活を楽しみたい	0 (0.0)	7 (9.1)
子どもを育てるための経済的負担が大きい	0 (0.0)	5 (6.5)
育児施設などの環境が十分ではない	0 (0.0)	4 (5.2)
住宅環境が悪い	0 (0.0)	2 (2.6)
その他	0 (0.0)	4 (5.2)

「自分の生き方を大切にしたい」の1名の回答であり，大学生は，「自分の生き方を大切にしたい」「妊娠，出産に対して不安がある」「親になることに自信がない」が上位の理由であった．出産願望があるものでは，出産を当たり前のこととして捉える理由が多く，看護学生は，「子どもが好き」「好きな人の子どもがほしい」という理由が多くみられた．

4. 就業意識

1) 卒業後の進路

大学生は，就業・進学後就業予定者が262名(91.9%)，その他・未定の者は23名 (8.1%) であった．看護学生は，就業・進学後就業予定者が69名 (98.6%) であった (表 1-B)．

2) 結婚後の就業意識

結婚後の就業については，大学生200名 (85.8%)，看護学生50名 (71.4%) と，大半の者に結婚後も就業継続の希望がみられた (表 1-B)．

3) 出産後の就業意識

出産願望がある者の中で，「出産をきっかけに退職したい」は大学生15名 (6.0%)，看護学生6名 (8.7%)，「出産後も就業継続」が大学生60名 (23.9%)，看護学生19名 (27.5%)，「子どもの成長後に再就職」が大学生166名 (66.1%)，看護学生44名 (63.8%) であり，大学生・看護学生の大半が出産後も就業を希望していた (表 1-B)．

4) 希望結婚年齢と結婚後の就業意識との関連

対象者の希望結婚年齢の平均値を基準に26歳以下と27歳以上の2つの群に分けると，看護学生では，26歳以下40名 (64.5%)，27歳以上22名 (35.5%) であった．そのうち，結婚後も就業を希望していたものは，26歳以下28名 (70.0%)，27歳以上21名 (95.5%) であった．

5) 希望結婚年齢と出産後の就業意識との関連

出産後の就業意識に関しては，4) と同様に2つの群に分けると，看護学生では，26歳以下44名 (65.7%)，27歳以上23名 (34.3%) であった．そのうち，出産後も就業継続を希望していたものは，26歳以下38名 (86.4%)，27歳以上23名 (100.0%) であった．

5. 乳幼児と接した経験

乳幼児と接した経験別に頻度を比較すると，大学生よりも看護学生のほうが，比較的経験が多くみられた (表4)．

1) 乳幼児と接した経験と結婚願望・出産願望との関連

乳幼児と接した経験の頻度について，表4に示した5項目を，「よくある」1点，「数回ある」2点「ほとんどない」3点，「全くない」4点として点数化し合計すると，大学生は平均13.7点，看護学生は12.3点であった．結婚願望について平均点を基準に，乳幼児と接した経験の多い群及び少ない群に分けると，看護学生では12点以下36名 (54.5%)，12点以上30名 (45.5%) であった．そのうち，結婚を希望していたものは，12点以下36名 (100.0%)，12点以上30名 (100.0%) であった．出産願望について平均点を基準に，乳幼児と接した経験の多い群及び少ない群に分けると，看護学生では12点以下36名 (53.7%)，12点以上31名 (46.3%) であった．その他は無回答を示している．そのうち，出産を希望していたものは，12点以下35名 (97.2%)，12点以上31名 (100.0%) であった．X^2 検定の結果，大学生では乳幼児と接した経験と結婚願望・出産願望との間には関連性が認められたと述べられていたが[1]，看護学生では認められなかった．

6. 出生率低下に対する意識

出生率低下に対し，大学生167名 (58.6%)，看護学生68名 (97.1%) が深刻な問題として捉えていた．その原因としては，表5のような回答が得られた．

7. 子育て環境に対する意識

現代の子育てしにくい原因として，表6のような回

表4 乳幼児と接した経験 人 (%)

	看護学生 (n=69)					大学生 (n=285)				
	よくある	数回ある	ほとんどない	全くない	その他	よくある	数回ある	ほとんどない	全くない	その他
一緒に遊んだ経験	21 (30.4)	38 (55.1)	8 (11.6)	0 (0.0)	2 (2.9)	95 (32.3)	116 (40.7)	49 (17.3)	19 (6.6)	6 (3.1)
抱っこ・おんぶの経験	14 (20.3)	42 (60.9)	10 (14.5)	1 (1.4)	2 (2.9)	68 (24.0)	123 (43.0)	56 (19.7)	33 (11.5)	5 (1.8)
ミルクを授乳した経験	6 (8.6)	26 (37.2)	19 (27.1)	18 (25.7)	1 (1.4)	29 (10.2)	75 (26.3)	46 (16.2)	126 (44.2)	9 (3.1)
おむつ交換の経験	5 (7.2)	27 (39.1)	20 (29.0)	16 (23.2)	1 (1.5)	23 (8.2)	64 (22.4)	34 (12.1)	154 (54.1)	10 (3.2)
お風呂に入れた経験	2 (2.9)	14 (20.3)	27 (39.1)	25 (36.2)	1 (1.5)	17 (6.1)	44 (15.3)	44 (15.3)	170 (59.8)	11 (3.5)

表5 出生率低下の原因 人 (%)

	看護学生 (n=67)	大学生 (n=277)
仕事と子育ての両立が困難	21 (31.3)	89 (32.1)
経済的負担	14 (20.9)	49 (17.7)
結婚しない女性の増加	16 (23.9)	47 (17.0)
晩婚に伴う出産にそのものに対する身体的負担の増大	8 (11.9)	39 (14.1)
子供が欲しいという意識の低下	5 (7.5)	29 (10.5)
わからない	0 (0.0)	7 (2.5)
その他	3 (4.5)	17 (6.1)

表6 子育てしにくい社会の原因 人 (%)

	看護学生 (n=67)	大学生 (n=276)
育児施設や育児休暇などの制度が不十分	22 (32.8)	76 (27.5)
子育ては女性の仕事であるという社会意識	26 (38.8)	38 (13.8)
企業内の協力不足	9 (13.4)	37 (13.4)
経済的負担	5 (7.5)	26 (9.4)
夫の協力不足	0 (0.0)	19 (6.9)
子育ての相談相手不足	2 (3.0)	19 (6.9)
学歴主義，いじめなどの教育環境	0 (0.0)	17 (6.2)
経験の未熟さから生じる育児不安	1 (1.5)	13 (4.7)
住宅環境	0 (0.0)	8 (2.9)
わからない	1 (1.5)	13 (4.7)
その他	1 (1.5)	10 (3.6)

答が得られた．大学生・看護学生ともに，「育児施設や，育児休暇などの制度が不充分」という回答が多く，看護学生は大学生に比べて，「子育ては女性の仕事であるという社会意識」という回答が極めて多くみられた．

IV. 考　　察

大学生・看護学生とも就業意識は高く，結婚後・出産後の就業継続や再就職の希望者が多いことが明らかとなった．さらに，結婚願望も高いことから就業継続意思を持ちながらも，結婚を肯定的に捉えているのではないかと考える．

「結婚と出産に関する全国調査 (独身者調査)」の未婚女性の理想ライフコースと，大学生・看護学生を比較すると，いずれも両立コース，再就職コースが多い中で，大学生・看護学生のほうが再就職コースが多く，専業主婦コースが少ない．

現代の未婚女性は，仕事と家庭の両立を希望する傾向が見られ，中でも大学生・看護学生は，その希望が強いと言える．(表7)

乳幼児と接した経験別に頻度を比較すると全体的に看護学生のほうが経験が多く，出産したい理由として，「子供が好き」と答えているものも多く見られた．花沢[2]が「乳児と多く接した人は，赤ちゃんに対する接近感情が高い．」と，述べており，これらは看護学生は講義や実習などで子供について学び，子供と関わることにより，肯定的な対児感情が高まったためではないかと考える．

表7　理想のライフコース　　%

	看護学生 (n=70)	大学生 (n=285)	全国未婚女性 (n=3,494)
非婚就業コース	0.0	8.5	5.0
DINKS コース	1.4	2.8	4.0
両立コース	25.7	18.6	28.0
再就職コース	55.7	52.2	37.0
専業主婦コース	7.2	4.9	19.0
未婚の母コース	0.0	9.5	—
その他・不祥	10.0	3.5	7.0

資料出所：国立社会保障・人口研究所
「結婚と出産に関する全国調査(独身者調査)」(2002年)
非婚就業コース：結婚せず仕事を一生続ける
DINKS コース：結婚するが子どもは持たず，仕事を一生続ける
両立コース：結婚し子どもを持つが，仕事も継続する
再就職コース：結婚して子どもを持つが，出産の時期にいったん退職し子育て後に再び仕事を持つ
専業主婦コース：結婚して仕事を持ち，結婚あるいは出産を機会に退職しその後は仕事を持たない
未婚の母コース：結婚はしない，あるいはしなくてもいいが子どもを持ち仕事を続ける

大学生に比べ，看護学生は，出生率低下を深刻な問題であると捉えていた．看護学生は講義や実習を通して，出生率低下について触れる機会があり，身近な問題として捉え関心を抱いていることを示している．また，大学生・看護学生ともに，「子どもを生みたい」「育てながら働きたい」と思いながらも，「育児施設や，育児休暇などの制度が不充分」「仕事と子育ての両立が困難である」との回答が多かったことから，現状の子育て環境・制度に不充分さを感じていると言える．

V. 結　　論

今回の比較調査により，大学生・看護学生の就業継続意識に明らかな差は見られず，大学生・看護学生ともに「仕事も家庭も」という考えを持ち，出産願望が高いという結果が得られた．少子化と言われている中で，子どもを持ちたいと言う思いを無駄にしないためにも，女性が子どもを持ちながら職業を継続していく事が出来るような社会のサポートが不可欠であり，社会制度や設備などを整え，子育てしやすい環境を社会全体で作り上げていくことが必要である．

今回の調査は，1校の調査であるため，研究結果がすべての看護学生に適応するかどうかについては言い切れない．また，比較文献が，2000年の意識調査であるため，現在の大学生の意識とは多少差があると考えられる．

参考文献

1) 森本恵他著．大学生女子の結婚・出産・育児および就業に関する意識調査．高知医科大学紀要．**16**, 65-76, 2000.
2) 花沢成一．母性心理学，医学書院，東京，79-85, 1992.
3) 伊藤道子．母性看護実習が看護学生の母性意識の発達に与える影響．母性衛生．**38**(1), 25-33, 1997.
4) 佐藤喜美子他著．看護専門学校生の結婚観に関する調査：私立大学系 (東京) 1985年の調査との比較—．日本看護学会集録 (母性看護)．**30**, 43-45, 1999.
5) 柴田文子．拝原優子．本学看護学科学生のライフプランの実態と生涯教育について．東邦大学医療短期大学紀要．**15**, 32-45, 2001.
6) 特集：女性の就業とライフコースの関係．こども未来．**12**, 7-12, 2001.